

ピコスポット（シミ取り） リスク・副作用

ピコ秒レーザーとは、ピコ秒（1ピコ秒＝1兆分の1秒）という短い時間レーザー光を照射する機械です。照射時間が短いため、最大出力が大きくなり、色素斑等のメラニンに対して、瞬間的にエネルギーを伝えることができ、熱作用がないため、結果的に少ない回数での色調改善が期待

されています。またレーザー照射後の副作用（炎症反応や色素沈着）を軽度を抑えることが可能と考えられています。

下記の注意点や予想される合併症・注意事項についてご確認した上で、治療を受ける事に同意していただける場合は、下記に署名をお願い致します。

本施術後は、**炎症後色素沈着**が生じる可能性があります。皮膚の安定を優先するため、2回目以降の施術は**6か月以上**の間隔をあけて実施することを推奨いたします。

治療が受けられない方・禁忌

- ・532nm・730 nm・1064nm の波長域の光に過敏な方、又は光線過敏症のある方
- ・ケロイド、瘢痕体質の方・糖尿病などの内分泌疾患に罹患しており、創傷治癒に障害がある方
- ・免疫抑制を引き起こす疾患、免疫抑制剤使用中
- ・出血性疾患に罹患、抗凝固薬を内服中
- ・妊娠中、またその可能性がある
- ・発熱している・全身状態が芳しくない
- ・光過敏性発作・光線過敏症に関連した疾患に罹患・既往
- ・光過敏症を誘発する薬剤・外用薬・サプリメントを使用中

※妊娠・授乳中の方は安全性が確立されていません。医師にご相談ください。

治療を行えない部位

- ・感染性の皮膚疾患又は、切開創・開放創・炎症・化膿がある
- ・悪性腫瘍直上・単純ヘルペス 1 型、2 型の活動病変上
- ・1 カ月以内の強い日焼け部位

麻酔について

- ・必要時表面麻酔を行います。
- ・痛みに弱い方は医師に相談してください。

治療前注意事項

- ☐ 日焼けをした状態では熱傷を生じるリスクが高くなるため、照射をすることができません。
日焼けをしないよう SPF30 以上の日焼け止めの使用や、長袖・長ズボン等の着用で日焼けを予防してください。
※日焼けしてしまった場合には、日焼けが落ち着いてからの照射となります。
- ☐ 照射部位に日焼け止めや化粧品（クリーム、化粧水含む）が残っていると、
レーザーが成分に反応して熱傷を起こす可能性があります。照射前には必ず落としてください。
- ☐ サンオイルを使用している場合は、1～2 週間前より使用を控えてください。
- ☐ 時計・アクセサリー等の貴金属類は事前に外して頂きます。

治療中注意事項

- ☐ レーザー光から目を保護する為にゴーグルを着用します。照射中は外さないでください。
- 目を閉じた状態でも眩しく感じることもありますが、眼に影響はありません。
- ☐ 通常と違う痛みを感じる、ヒリヒリするなど違和感がある場合はお知らせください。

治療後注意事項

- ☐ 照射部位が腫れや赤みが残ることがありますが、一過性の症状であり1週間程度で軽快します。
1週間以上経過しても軽快しない場合は早めにご連絡ください。
- ☐ 照射直後は疼痛が強いのので、アイスパック等でクーリングを行います。
- ☐ ガーゼ/ドレッシング剤保護+軟膏処置を行います。※治療当日は浸出液が出る事が多い為
- ☐ 治療部位は掻いたりしないでください。皮膚を傷つけることで色素沈着になる可能性があります。
- ☐ 当日は入浴をせず、シャワー浴のみとしてください。
- ☐ 赤み・腫れ・痒みが強い場合は来院してください。
- ☐ 治療期間中の日焼けは避けて下さい。日焼け予防対策を日常的に行ってください。
- ☐ 照射後は医師の指示に従い、ホームケアを行って下さい。

合併症について

【色素沈着】

擦れやすい・日焼けしやすい箇所は色素沈着のリスクが高くなります。

【色素脱失】

色調が濃い場合は熱損傷や頻回の治療を行う事により発生します。

【瘢痕】

元の体質や、出力・短期間の照射間隔にてリスクが増大します。

【その他合併症】

痂皮形成、水泡形成、紫斑、紅斑、浮腫、掻痒感、内出血、炎症等